

# 令和3年 市政10大ニュース

## ● 新型コロナウイルスワクチン接種の実施で感染が急速に減退へ

病床の逼迫<sup>ひっぱく</sup>を打開するため2月に専用病棟を開設。感染を防止し、収束に向かわせる切り札として、12歳以上の市民を対象にワクチン接種を行い、11月末までに12歳以上の市民の約83%が2回の接種を完了しました。また、新型コロナウイルス感染症患者が急増した、いわゆる「第4波」・「第5波」においては、重症化を防ぐことを最優先とし、自宅療養者に対しては、在宅療養サポートチームを編成。在宅で亡くなられた方はいませんでした。今後の「第6波」への備えを怠らずに、アフターコロナの経済振興を図っていきます。

## ● 姫路港広畑地区国際物流ターミナル整備事業の事業化決定

3月30日、国土交通省において、「姫路港広畑地区国際物流ターミナル整備事業」が、3年度新規事業として採択されたと発表されました。国際拠点港湾姫路港の物流・交通ネットワークを充実させ、大幅な機能強化を図るため、広畑公共ふ頭大水深岸壁2バース目の整備、網干沖地区と広畑地区を結ぶ臨港道路網干沖線の整備、臨港道路広畑線の拡幅など、国・県合わせて270億円の総事業費をかけ、3年度から12年度までで実施されます。

## ● 姫路市総合計画「ふるさと・ひめじプラン2030」スタート！

本市が直面する課題や社会経済情勢の変化を踏まえ、3年度からの10年間で目指す姫路の姿と、その実現に向けたまちづくりの目標や方向性を示した新たな総合計画「ふるさと・ひめじプラン2030」を4月からスタート。新たな時代の「ふるさと・ひめじ」のまちづくりを強力的に推進していきます。

## ● 2050年までに二酸化炭素の実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言

カーボンニュートラルのキーテクノロジーとされる水素エネルギーの利用拡大に向け、本市の補助制度を利用して、燃料電池自動車用の水素ステーションが4月に飾磨区中野田で操業を開始するとともに、西日本初となる燃料電池バスが同月から市内で運行を開始。本市も公用車として燃料電池自動車を導入するなど、ゼロカーボンシティ実現への第一歩を踏み出しました。

## ● 「姫路市立美術館を中核とした文化観光推進拠点計画」が認定。「オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト」始動

「姫路市立美術館を中核とした文化観光推進拠点計画」が県下で初めて国に認定されました。その軸となる事業で、海・島・山・森林・田園など本市が擁する地域文化をアートの中で市民ライフの糧として再発見するとともに、新たな姫路の魅力を国内外に発信する「オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト」を4月に始動。4カ年かけて行う事業の初年度である3年度は、現代美術家・日比野克彦氏を招き二つの展覧会を開催したほか、書写山円教寺や家島など、市内各所で「明後日朝顔プロジェクト」や「TANeFUNe」などのアートプロジェクトを実施しました。

## ● <sup>エスディーゼス</sup>SDGs 未来都市に選定

5月21日、内閣府において本市が「SDGs 未来都市」に選定されました。郷土愛を育み、脱炭素型のライフスタイルを身に付けたSDGsマインドを持つグローバル人材を育成するほか、日常生活や経済活動の中で、市民・企業・団体等の多様なステークホルダーと連携・協働し、持続可能なまちづくりを目指します。

## ● オリンピック・パラリンピックイヤー！ 聖火、フランス柔道選手団を受け入れ

5月23日、本市で東京2020オリンピック聖火リレーを実施しました。兵庫県に緊急事態宣言が発出されていたことにより、公道での聖火リレーを中止。同日走行予定であった豊岡市、朝来市、宍粟市、加東市、小野市、加古川市の聖火ランナーも参加し、姫路城三の丸広場において無観客で点火セレモニーを開催しました。8月15日には、東京2020パラリンピック姫路市聖火フェスティバルも実施。1964年オリンピック東京大会の聖火リレーで聖火を灯した陸上競技場の炬火台きよかに点火して「ひめじの火」を作り、その火をランタンに入れ、姫路駅北にぎわい交流広場中央地下通路に展示しました。

また、7月11日から27日まで、フランス柔道選手団の事前合宿を受け入れ、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら公開練習見学会や市民コンサート「姫路フランス祭」を実施し、選手団と市民が交流できる機会を設けました。

## ● 市議会議員による不当要求問題で議会が特別委員会を設置 市は外部有識者による検証を開始

令和2年において、市議会議員による不当要求行為と市職員の対応が問題となり、3年3月、市議会に「不当要求議員が関わる事業の真相を究明する特別委員会」が設置される事態となりました。

市では、この問題を検証するため、8月に外部の有識者3人を専門委員として委嘱し、原因の究明等を行うこととしました。今後、市議会とも協議の上、不当要求行為の再発防止と不当要求行為に屈しない組織づくりに取り組み、市政の信頼回復に努めていきます。

## ● アクリエひめじグランドオープン！ WHO西太平洋地域委員会の開催

姫路市文化コンベンションセンター「アクリエひめじ」が、9月にグランドオープンしました。播磨圏域初となる2,010席の大ホールや、ワンフロアに配置された会議室、約4,000㎡の無柱大空間の屋内展示場などを備えた大規模複合施設で、これまで開催できなかった大規模コンサートや国際会議、展示会など、多彩なイベント・催事が可能に。また、7月に行った完成記念式典では、大・中ホールの緞帳デザインを寄贈していただいた本市出身の世界的デザイナー故・高田賢三氏に、名誉市民の称号を贈呈しました。

10月25日から29日には、西太平洋地域に属する世界保健機関（WHO）加盟国の年次総会であるWHO西太平洋地域委員会が、感染症対策を徹底した本市での現地参加とオンライン参加によるハイブリッド形式で開催され、各国の保健大臣や政府高官が、新型コロナウイルス感染症をはじめとする重要な保健課題について情報交換・議論を行いました。

## ● 姫路観光コンベンションビューローが登録DMOに！ 本市の歴史・文化を国内外に発信

11月4日、観光庁より、姫路観光コンベンションビューローが「登録観光地域づくり法人（登録DMO）」に登録されました。地域の「稼ぐ力」を引き出し、地域への誇りと愛着を醸成する観光地域づくりの司令塔として、多様な観光関係事業者との連携により、観光客の受け入れ環境の充実を図るなど、地域一体となった観光地域づくりに取り組みます。

また、本市においては、アフターコロナの起爆剤としても期待される「姫路城歴史体感プログラム（リビングヒストリー）」として、10月30日から11月26日まで、千姫とその夫・本多忠刻の復元着物を姫路城西の丸の化粧櫓で特別展示するとともに、11月6日に開催した姫路お城まつりでは、江戸時代後期の酒井家の大名行列を再現した「姫路大名行列」を初披露しました。